

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「夢をつなぐ、文化をつなぐ、地域をつなぐ」学校

「つなぐチカラ」（知識・技術・情報をつなぐ活用するチカラ、人と人をつなぐ協働するチカラ、自分と社会をつなぐ自立するチカラ）を育むことで、社会に貢献する人材を育成する。

- 多様な進路希望を持つ生徒に対し、「活用するチカラ」を育み、「夢をつなぐ（夢を叶える）」学校をめざす。
- 多様な文化を認め、共に生きることで、「人権意識」、「他を思いやる心」を持つ「協働するチカラ」を育み、「文化をつなぐ」学校をめざす。
- 「安全で安心」な学校生活、地域との連携の学びから、「自立するチカラ」を育み、「地域をつなぐ」学校をめざす。

2 中期的目標

「生徒ファースト～達成感・充実感・納得感～」を基本的な考え方とし、生徒の視点を大切に、生徒の学びと成長にとって何が重要かということをも優先に教育活動に取り組む。平成 30 年度の総合学科改編に向けて、一人ひとりの生徒の多様な学びと進路を実現する教育内容と教育環境の充実を図る。

*学校生活満足度（学校に行くのが楽しい・自分のクラスは楽しい、平成 28 年度 65%）を平成 31 年度には 80%以上をめざす。

1. 夢をつなぐ（確かな学力と進路実現）

(1) 生徒の達成感のある授業をめざし、ユニバーサルデザインに基づいた「視覚化・構造化・協働化」をテーマに授業充実に取り組む。

ア 授業アンケート、授業充実研修、授業見学週間、授業公開を活用し、「視覚化・構造化・協働化」をテーマに授業充実に取り組む。

「視覚化・構造化・協働化」をより具体化するため ICT を活用し、アクティブラーニングの視点を大切に授業を進化させる。

*生徒向け学校教育自己診断における授業の満足度（平成 28 年度 63%）を平成 31 年度には 70%以上をめざす。

*生徒向け学校教育自己診断における選択科目の満足度（平成 28 年度 80%）を平成 31 年度には 82%にする。

(2) 希望する進路を実現できる「確かな学力」の育成

ア「総合的な学習の時間」や LHR の時間に、3 年間を見通したキャリア教育や人権教育を実施し、多様な進路希望を持つ生徒それぞれの夢の実現を図る。

そのため、進学説明会、就職説明会、分野別説明会、進路体験学習、インターンシップなどを一層充実させる。

*生徒向け学校教育自己診断における進路指導関係の項目の満足度（平成 28 年度 71%）を平成 31 年度には 75%にする。

*学校斡旋就職率 100%、希望する大学・短大・専門学校への進路実現率 95%を維持する。

2. 文化をつなぐ（「人権意識」が身についた「他を思いやる心」をもつ生徒の育成）

(1) 総合的な学習の時間や LHR で人権教育を一層充実させることで、生命と人権を尊重し、他を思いやる「豊かな心」を持つ生徒を育成する。

ア「中国等帰国生及び外国人生徒」の学習状況や活動状況を校内で共有し、「日本人生徒」との共生を図る。

*生徒向け学校教育自己診断における人権に関する項目における肯定率（平成 28 年度 89%）を平成 31 年度には 90%にする。

3. 地域をつなぐ（安全で安心な学校づくりと地域に信頼される学校づくり）

(1) 生徒の納得感のある指導により、規範意識の醸成と個々の生徒への支援を行う。

ア 基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成を図る。また、保護者や関係諸機関との連携を図り、教育相談体制をさらに充実させて、課題を抱える生徒の支援を行う。

*生徒向け学校教育自己診断における生活規律等の基本的な生活習慣に関する項目の肯定率（平成 28 年度 71%）を平成 31 年度には 75%以上をめざす。

*保護者向け学校教育自己診断における生徒指導に関する項目の肯定率（平成 28 年度 79%）を平成 31 年度には 82%にする。

イ「高校生活支援カード」等を活用し、課題を抱える生徒の状況把握に努め、必要に応じて支援や外部機関等との連携に努める。

*生徒向け学校教育自己診断における教育相談に関する項目の満足度（平成 28 年度 47%）を平成 31 年度には 50%にする。

(2) 生徒の充実感のある学校行事や部活動を通じて生徒の自主性、自己有用感を醸成する。

ア 学校行事や生徒会活動を通してやる気のある生徒のリーダーシップを育てる。

*生徒向け学校教育自己診断における学校行事、部活動、生徒会に関する満足度（平成 28 年度 70%）を平成 31 年度には 75%以上をめざす。

イ 部活動の活性化に継続的に取り組む。

*部活動加入率は 50%を維持する。

(3) 地域連携

ア 学校から積極的に情報を発信し、開かれた学校づくりを推進する。

*近隣の中学校との連携や広報活動、地域連携授業、地域のイベントへの積極的参加等を通して、地域に根ざした学校づくりを推進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の85（84）%、保護者の85（84）%が「この学校には他の学校にない特色がある」と答えており、生徒の多様な進路や興味・関心に応えるエリアや多くの選択科目が高い肯定率につながっている。 「授業はわかりやすく、集中して受けることができる」が昨年度の63%から71%に大きく上がっている。一昨年度導入されたプロジェクターとタブレット端末の活用が進んでいるからである。また「教え方に工夫をしている先生が多い」も65%から66%に上がっている。授業の視覚化が着実に進んだのと、教員の授業への工夫を進めているからと考えられる。 「授業で自分の考えをまとめたり、パソコンなどを使用して発表する機会がある」が58%から68%に大幅に上がっている。アクティブラーニングを意識した授業が多く教科で実践され、学びあったり発表したりする機会が増えているからである。 今後、さらに授業の視覚化・構造化・協働化を進め、生徒に「つなぐチカラ」をつけさせる授業作りに全校で取り組んでいくことが必要である。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒指導の面で84（87）%の保護者が生徒を正しい方向に指導していると評価しているが、生徒指導の方針に共感できるという回答は69（70）であった。常識やマナー、他者への思いやりや配慮に重きを置く本校の生徒指導に、生徒の視点に立った納得感のある指導を進めている。また、生徒の72（71）%が「生 	<p>第1回（平成 28 年 6 月 14 日）</p> <p>ア) 中高一貫改編に携わった経験から、学校設定科目の継続性の課題については認識している。そのために教員を確保する必要がある。</p> <p>イ) 生徒のニーズと設定科目のミスマッチが生じる恐れもある。事前に学習内容ははっきりと公開する必要がある。</p> <p>ウ) 科目数が増えることで、教員がより一層多忙になることが想定される。講師料なしでも高校生と関わりたい講師等を活用し、地域との連携を進めていくことも視野に入れてはどうか。</p> <p>エ) 多様な領域での科目開設は、生徒のニーズに応えるものではあるが、それまでの準備が大変になることも予想される。</p> <p>オ) 生徒を高校へ送り出す側からすると、生徒が「行きたい。行ってよかった。」と、思うことが重要である。生徒が集まるかどうかは、広報活動やその資料がポイントになってくる。ポスターやパンフレットを作る際</p>

府立成美高等学校

<p>活規律や学習規律の確立に力を入れている」と肯定的に捉えている。「安全で安心な学校」を維持するために、全教職員が生徒指導は生徒の意欲を高めるための指導だという共通認識を持ってあたることが重要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「文化祭は周りど協力しておこなえる」77 (69) %、「体育祭は周りど協力しておこなえる」75 (74) %であった。「部活動は活発である」は68 (58) %で大きく上がっている。これは今年度多くの部活動が良い結果を出してきたためである。今後、さらなる活性化のために、現在頑張っている生徒を校内外にアピールし、本校の部活動を知ってもらおう取組をおこないたい。今後、全ての学年で「やる気のある」生徒のリーダーシップを育成するために、様々な場面において生徒を中心に活動をおこなうようにすることが、生徒の自主性を伸ばすとともに生徒会活動や部活動さらには学校生活の活性化につながっていくものと考ええる。 ・79 (80) %の保護者が進路指導に対して肯定的に答えている。これは大阪府内平均よりも高い就職内定率や進学希望者ほぼ全員の合格率を誇る進路指導への信頼感が大きく影響している。今後も進学指導を充実させ、進路や学年が連携し進学講習等の指導に取組む必要がある。 ・文化祭や体育祭等の行事、部活動活性化等における生徒会役員の貢献は非常に大きい。今年度も、学校説明会等において生徒会を中心におこなった。また、全校集会では毎回生徒会からの話をしてもらった。今後、さらに生徒が活躍できる場を増やせるように工夫したい。生徒会役員や生徒委員会を中心に据え、生徒主体の活動へ理解を深める必要がある。 <p>【学校運営等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校に行くのが楽しい」は71 (62) %、「自分のクラスは楽しい」は74 (67) %で昨年度より大きく上がっている。今年度、「生徒ファースト」をテーマに学校の全ての教育活動を進めているためである。 ・「相談に適切に応じている」と答えた保護者は81 (83) %であった。今後も連携を密にし共通認識を持って取組むことが大切である。また、「困っていることに真剣に対応してくれる」と答えた生徒は68 (63) %だった。生徒の満足度を上げるためには、教員と生徒と関わる時間(量)の確保とカウンセリングマインドをもった生徒との関わり(質)を学校全体で検討し、工夫する必要がある。 ・「学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている」が72 (71) %であった。これは校長ブログや学校広報Tブログなどが学校の情報を発信しているが、また十分に広報できていないことが考えられる。今後もさらに学校からの情報を素早く発信していく必要がある。 <p>() 内の数字は昨年度の結果です。</p>	<p>は、視覚に訴える。細かくしすぎない(選択と集中)。取得可能資格・進学先を明記する。簡単な様式にする。生徒が興味関心を示すような言葉を載せる。と、いったことをおさえて取り組むと良い。</p> <p>第2回(平成29年9月25日)</p> <p>ア) 吹奏楽部に祭り等で協力をしてもらっているが、部活動の活性化にご支援のほどお願いしたい。</p> <p>イ) 教員もパワーグラフを作成してはどうか。</p> <p>ウ) これまで教育活動をしっかり総合学科に取り入れてほしい。</p> <p>エ) 働き方改革の中で、勤務時間を見直し、教員の負担を軽減するため、仕事内容の取捨選択を行うことがよい。</p> <p>オ) 生徒を高校へ送り出す側からすると、生徒が「行きたい。行ってよかった。」と思うことが重要である。魅力ある学校づくりを進めてほしい。</p> <p>第3回(平成30年1月24日)</p> <p>ア) 公開授業に参加をさせてもらったが、生徒が積極的に授業に参加している様子を見るのができた。言葉だけの説明よりも視聴覚に訴えることによって、学習時の分かりやすさを進めることが必要である。</p> <p>イ) 社会に出ればチームで動くということが多く、周囲と協力して動くということが大切である。また学んだ知識を整理することで構造化していく作業も大切である。</p> <p>ウ) 新しい成美がどのように変化していくか楽しみである。生徒心得は、古い内容が多く、解釈の幅が大きいので、もう少しストレートな表現で分かりやすいものにしてもよいと思う。</p> <p>エ) 総合学科への改編は大変であったと思う。ハード面が整備され、これから成果が求められていく。生徒にとってより良い授業を展開して行ってほしい。</p> <p>オ) 部活動については、働き方改革の一環として、ノークラブデーの設定などを考える必要がある。</p>
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
生徒ファースト	「生徒ファースト」を基本的な考え方とした教育活動	「生徒ファースト～達成感・充実感・納得感」を基本的な考え方として、生徒の視点を大切に、生徒の学びと成長を最優先に教育活動に取り組む。	学校生活満足度(学校に行くのが楽しい・自分のクラスは楽しい、平成28年度65%)を平成29年度には70%以上をめざす。	学校生活満足度は、平成29年度73%となり、約8%向上した。授業充実、学校行事などの充実が学校生活満足度の向上につながった。(◎)
1. 夢をつなぐ(確かな学力と進路実現)	(1) テーマ「視覚化・構造化・協働化」とした授業充実の取り組み ア 授業アンケート、授業充実研修等を活用した授業充実の取り組み イ ICTを活用した授業、アクティブラーニング授業の研究 (2) 希望する進路を実現できる「確かな学力」の育成	(1) ア・「授業アンケート」を分析して課題を把握し、授業改善を継続する。 イ・授業充実研修でICTを活用した授業、アクティブラーニングを実践例とした研修を実施し、相互研鑽の場とする。 (2) ア・進学希望先に応じた小論文や面接指導の実施。3年間に実施する各種説明会や進路体験学習を充実させる。 ・キャリアガイダンスを充実させるとともに進学講習体制を確立する。 イ・就職支援コーディネーターを活用し、模擬面接、インターンシップ等を充実させる。	(1) ア・「授業アンケート」の「教材活用」に関する肯定的意見80%を維持(平成28年度84%) ・生徒向け学校教育自己診断の選択科目に関する満足度80%にする。(平成28年度80%) 授業に関する満足度70%以上をめざす。(平成28年度63%) (2) ア・生徒の希望する進路の実現率95%を維持。(平成28年度97%) イ・1回目の就職試験合格率70%以上を維持。(平成28年度74%) 学校斡旋就職希望者の就職率100%(平成28年度100%)	(1) ア・「授業アンケート」の「教材活用」に関する肯定的意見は、80%を維持した(◎)。 ・生徒向け学校教育自己診断の選択科目に関する満足度82%となり2%UPした、生徒の多様な興味関心に応えるエリアや選択教科が高い肯定率の大きな要因となっている。(◎) 授業に関する満足度71%となり8%と2年連続して大幅UPした。ICTを活用し、アクティブラーニングの視点を取り入れた授業が多くなることで向上した。(◎) (2) ア・生徒の希望する進路の実現率98.6%となった。 イ・1回目の就職試験合格率78%となった。学校斡旋就職希望者の就職率100%
が身についた他を思いやる心をもつ生徒の育成	(1) 人権教育のさらなる充実 ア「中国等帰国生及び外国人生徒」と「日本人生徒」との共生	(1) ア「総合的な学習の時間」やLHRで人権教育に関する指導を充実させるため、多文化理解公演を2回実施する。1年生は中国文化理解LHRで中国等帰国生徒の卒業生との交流や中国食文化の体験などを行う。	(1) ア 生徒向け学校教育自己診断の人権に関する項目における肯定率90%(平成28年度89%)	(1) ア 生徒向け学校教育自己診断の人権に関する項目における肯定率86%となった。本校の人権教育に関する肯定率は、高い数字となっている。引き続き、当事者との出会いや参加型の人権学習を計画的に実施していきたい。(○)

府立成美高等学校

<p>3. 地域をつなぐ(安全で安心な学校づくりと地域に信頼される学校づくり)</p>	<p>(1) 生徒の規範意識の醸成と個々の生徒への支援 ア 基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成 イ 教育相談のさらなる充実</p> <p>(2) 生徒の自主性、自己有用感の醸成 ア 生徒会活動のさらなる充実 イ 部活動のさらなる活性化</p> <p>(3) 地域連携 ア 地域から信頼される学校づくり</p>	<p>(1) ア・全教員による登校指導の継続実施 ・遅刻指導・服装指導の徹底を図り、基本的な生活習慣を確立させる。遅刻の多い生徒に対しては必要に応じて放課後指導を行う。 イ・カウンセリングマインドを持ち、共感的な姿勢で生徒の日常の教育相談を進める。 ・「高校生活支援カード」を活用し教育支援委員会(週1回)において、課題を抱える生徒の状況を把握し支援を行う。いじめパイロット校、居場所作り事業によるSC,SSWとの連携を密にし、生徒支援を行う。また、必要に応じて「個別の教育支援計画」の作成、ケース会議の開催、関係諸機関との連携を図る。 ウ・人権教育推進委員会、CF委員会(中国等帰国生徒及び外国人生徒に対する検討委員会)が連携し、情報の共有、迅速な対応を図る。</p> <p>(2) ア・体育祭、文化祭の企画運営、学校説明会等での活躍の場を一層増やし、生徒会役員をリーダーに据える。 イ・新入生オリエンテーション、体験入部を実施。 ・中高連携の部活動交流を行う。 ・大会やコンクール入賞の部の支援を行い、さらなる活性化をめざす。</p> <p>(3) ア・地域のイベント等への積極的参加 ・生徒会役員、部活動部員を中心に地域清掃等へのボランティア参加 ・中高連携、地域連携授業をさらに充実させ、積極的に学校の情報を中学校や保護者に発信すると共に、開かれた学校づくりを推進する。</p>	<p>(1) ア・生徒一人当たりの遅刻回数5回以下(平成28年度4.5回) ・生徒の懲戒件数15件(平成28年度27件) ・生徒向け学校教育自己診断の基本的な生活習慣の確立に関する肯定度73%以上(平成28年度71%) イ・生徒向け学校教育自己診断の教育相談に関する項目における肯定率48%(平成28年度47%)</p> <p>(2) ア 生徒向け学校教育自己診断における生徒会活動に関する肯定度75%以上をめざす。(平成28年度71%) イ・部活動加入率50%をめざす。(平成28年度41.4%) ・大会やコンクールの入賞数10以上(平成28年度45) ・中高連携部活動交流の実施回数を5回以上</p> <p>(3) ア・地域のイベント参加数25件以上(平成28年度36件) ・校区一斉清掃活動などの参加各15名以上(平成28年度666名) ・近隣中学校の訪問3回以上実施(平成28年7回) ・地域連携授業の継続実施</p>	<p>(1) ア・生徒一人当たりの遅刻回数は、5.5回(△) ・生徒の懲戒件数11件(3月15日現在)(◎) ・生徒向け学校教育自己診断の基本的な生活習慣の確立に関する肯定度72%となった。(○) イ・生徒向け学校教育自己診断の教育相談に関する項目は肯定率53%となり、大幅にUPした。(◎)</p> <p>(2) ア 生徒向け学校教育自己診断における生徒会活動に関する肯定度78%となった。生徒会の体育祭や文化祭での活躍が目立った。文化祭では、後夜祭を生徒会・実行委員が主体的に実施した。(◎) イ・部活動加入率は、43%となった。(○) ・大会やコンクールの入賞数は、47となった。 放送部:5年連続NHK杯全国高校放送コンテストに進出した、ダンス部:全日本高等学校ダンス選手権に進出した。サッカー部:府大会4回戦に進出した。硬式テニス部:男子団体戦ベスト16に進出した。バドミントン部:堺市民大会優勝、公立校大会第4学区準優勝した。演劇部:地区大会優秀賞で表彰された。バスケットボール部:公式戦で勝利するなど健闘している。中国文化春暁倶楽部:50回以上の公演を行い、四天王寺ワッソにも出演した。(◎) ・中高連携部活動交流の実施回数を15回実施した。(3月15日現在)(◎)</p> <p>(3) ア・地域のイベント参加数30件となり、様々なイベントへの参加があった。 ・校区一斉清掃活動などの参加40名 ・近隣中学校の訪問8回行い、中学校との連携を大切にすることで、教育活動へいかすことができた。(◎)</p>
---	--	---	---	---